小学生段階の読書への興味
～童話『ジャックと豆の木』の冒頭部分の読みを通して～

細川　太輔*・大河原　清**

（2012年３月５日受理）

Daisuke HOSOKAWA and OOKAWARA Kiyoshi

Pupils' Interest in Reading in Elementary School through Reading the Head Parts of "Jack and the Beanstalk"

要　約

大河原･苅間澤（2011）は、『ジャックと豆の木』の冒頭部分を高校２年生に読んでもらい､その後、別バージョンの『ジャックと豆の木』を読ませたところ､読書への興味をもったという。本稿では、その活動が小学生にも適用できるのかを検証する。とりあげる童話『ジャックと豆の木』の表現には、分析的読みにふさわしい表現を含む教材であるので、小学生高学年であれば十分読めることが予想される。その結果、約76％の児童が、普通よりも興味を持ったと答え、読み比べの方法で読書への関心を高めることが分かった。さらにこうした方法の継続的希望については、約84％が「継続したい」と回答していた。

また児童は疑問点を多数挙げることができ、児童であっても疑問をもつことができる教材であるといえるだろう。

さらに疑問の解決でも小学生もきちんと取り組むことができた｡高校生は21の解決を見つけたが、児童は28も解決していた。また小学生のみの解決も、ジャックの人物像に迫るものもあり、物語をよく読んでいることがうかがえた。児童の素朴な疑問が解決されたものもあるが、童話に夢中になって主体的に疑問を提起しているものもあった。

このように同じ書名でバージョンの異なる２冊の本を読み比べることは、読書の範囲を広げ、意義や楽しさを実感させることにつながる。学習指導要領にもある通り、これから小学生の読書の方法としてとても価値のある方法であることがいえる。

1　はじめに

大河原･苅間澤（2011）は、『ジャックと豆の木』の２冊の本を高校２年生に読んでもらい、疑問点や不思議点、矛盾点を挙げさせた。最初の本に続いて、内容の異なる別バージョンの『ジャックと豆の木』を読ませたところ、読書への興味をもったという。高校生からは「一つの物語」を、様々な目線から見たり、読み比べをしたりして、自分の疑問などを見つけ、真相に向かって行くのが、これほど楽しいとは知らなかった。また、他人の主張なども聞いて他人の考え方や人柄までも知ることができて、とても楽しかったという感想がでていた。

本稿では、その活動が小学生にも適用できるのかを検証する。とりあげる童話『ジャックと豆の木』の表現には、分析的読みにふさわしい表現を含む教材であるので、小学生高学年であれば十分読むことができると予想される。

＊東京学芸大学附属小金井小学校
＊＊岩手大学教育学部附属教育実践総合センター

２　実践の概要

本稿で扱う実践は、大河原・苅間澤の実践が小学生で適用できるかが論題であるので、基本的に大河原・苅間澤と実践方法は同じである。しかし、本稿でも説明しないと授業の概要を明らかにできないので、大河原・苅間澤の論を引用しながら説明していく。

2-1　実践のための２冊

本ａと本ｂは同じ書名の『ジャックと豆の木』である。本ａは三宅忠明訳（1978）の『ジャックと豆の木』であり、本ｂは大宮杉訳（1977）の『ジャックと豆の木』である。実践では冒頭部分のみ取り上げた。

三宅の『ジャックと豆の木』では、ミルクを突然出さなくなったことで、牛は市場に売りに出されるのに対し、大宮の『ジャックと豆の木』では、ジャックは怠け者で働かず、家は極貧のために、母親は自分の着物を売り、さらにテーブルや戸棚を売り、家の中は空っぽの状態になっており、最後に残された牛が売りに出されるという設定になっている。

2-2　実践の手順

この実践は2011年６月14，15日に、筆者が担任する東京学芸大学附属小金井小学校５年３組（男子18人、女子20人）で行った。

・事前（集団）［DVDによる事前視聴］

事前に、DVD『ジャックと豆の木』（約15分）を視聴した。今回は読書の直前に見せた。

・第１時

１）（個人）［個人による本ａの読書］

本ａ『ジャックと豆の木』の冒頭部分を、各個人で読む。

２）（個人）［個人による疑問点の列挙］

疑問点・不思議な点（以下、「不思議点」と表記する）・矛盾点を各自、ノートに列挙する。

３）（小集団）［グループ別疑問点の列挙］

少人数のグループに分かれ、個人で列挙した疑問点・不思議点・矛盾点を披露し、自分の挙げなかったものがあるのを知る。同時に、グループで新たに何か疑問点・不思議点・矛盾点を発見できるかについて、話し合いをして、グループのまとめをする。それらをホワイトボードに書いた。

４）（全体）黒板へホワイトボードの内容を書き出して共有する。

・第２時

１）［解決策の一例となる本ｂの読書］

これまでに提出された疑問点・不思議点・矛盾点の解決策になると思われる本ｂの読書を通して、これまでに出された疑問点・不思議点・矛盾点の解決を図る。

２）これまでに出された疑問点・不思議点・矛盾点がある程度解消されるようになったかを、調査用紙に感想文の形で記述してもらった。

３　読書への関心意欲について

まず児童の実態として毎月どれくらいの本を読んでいるのかを調査した。

表１　読書の実態を聞いた結果

(1) 読書の習慣		
小学５年生38人		
あなたは普段読書をしますか。（毎月□冊程度）		
		（人）
5	20冊以上	13（34%）， 4 10～19冊 6（16%）， 3 5～9冊 5（13%）， 2 1～4冊 6 1 0冊 0 無回答 8
5	大変読む	12
4	やや読む	13

3	普通	10
2	あまり読まない	3
1	全然読まない	0

以上の通り、読書を習慣的にしている児童が多くいることがわかる。月ごとの冊数で８人が無回答であったが、無回答の８人は「５　大変読む」が３人、「４　やや読む」が３人、「３　普通」が１人、「２　あまり読まない」が１人であり、自分が何冊読んでいるのかわからなくて無回答にしたものと思われる。

表２　読書への興味を５段階で聞いた場合の結果（大河原・細川・苅間澤（2012）, p.172）

(2) 二つの版（本ａと本ｂ）の読み比べ法		
小学５年生38人		
読書に興味を持ちましたか（人）		
5	非常に興味を持った	13（34%）,
4	普通より興味を持った	16（42%）,
3	普通（どちらでもない）	7（18%）,
2	あまり興味を持たなかった	0,
1	全然興味を持たなかった	0,
	無回答	2（5%）,
この読み比べ法を継続したいですか（人）		
1	はい（継続したい）	32（84%）,
2	いいえ	5（13%）,
	無回答	1（3%）,

約76%の児童が、普通よりも興味を持ったと答え、読み比べの方法で読書への関心を高めたことが分かる。さらにこうした方法の継続的希望については、約84%が「継続したい」と回答している。

４　小学生がもった疑問

児童がもった主な疑問は表３の通りである。

表３　児童が本ａを読んで疑問に思ったことの結果

(3) 本ａを読んでもった疑問	
小学５年生38人	
疑問点や不思議な点を挙げなさい。（人）	
なぜ老人はジャックの名前を知っていたのか	23人
なぜ老人は豆の持ち方を聞いたのか	10人
なぜ雲の上に家、道、塔があるのか	８人
なぜ両手に二つずつと、口に一つくわえると言ったのか	７人
どうしてジャックは牛と豆を交換したのか。	６人
雲の上から落ちないのか、空気が薄くないのか	５人
なぜ豆の木は一晩で天まで届いたのか	５人
ミルキーホワイトを食べればよかった	５人
どうして大きな家がゆれるのか	４人
天まである木を登るのは不可能	４人
ジャックに厳しすぎる（食べさせない）	４人
児童だけの意見（高校生になかったもの）	
豆をいくつぶかとなぜ言うのか。	３人
牛を売っただけなのにどうしてそんなに疲れるのか	３人
どうして飢え死にすることと丸焼きで死ぬことを同じと思えるのか	３人
ほそぼそ暮らすとは	２人
牛の名前は白乳号かミルキーホワイトか	２人
なぜパンを作るのか	２人
ジャックはどうして雇ってもらえないのか	２人
市の立つ日とは	２人
豆は魔法の豆なのか	２人
お風呂に入らず寝るのか	２人
そもそも食べ物も飲み物もないはずでは	２人
豆が天まで伸びるはずがない	２人
投げたのに、窓のすぐそばに豆が生えている	２人
どうして食べ物をうちにもって帰らないのか	２人
大きな家がどうしてこわれないのか	２人

このような疑問を児童は挙げたが、これは全て高校生がもった疑問と同じである。つまり『ジャックと豆の木』は、児童であっても高校生と同じ疑問を持つことができる教材であるといえる。

逆に児童のみがもった疑問も少数意見だがある。中には「ほそぼそ暮らす」の意味を問うなど言葉の意味がわからないという疑問や白乳号とミルキーホワイトというように訳の違いから来る疑問もあり、小学生という段階だからという疑問もある。

しかし「ジャックがなぜ雇ってもらえないのか」など、ストーリーに関連する疑問も多く出ており、小学生でも疑問をもてることがよくわかる。

5　小学生が解決した疑問

児童は本ｂを読んで、解決した疑問は表４の通りである。

表４　児童が本ｂを読んで解決した疑問の結果

(4) 本ｂで解決した疑問	
小学５年生38人	
物語ｂを読んで、物語ａの疑問点や不思議な点は解決しましたか。（人）	
なぜ名前を知っていたのか	17人
→近所の肉屋だから	
豆の色	10人
→虹の色	
なぜそんなに母は怒ったのか	３人
→ずっとジャックのわがままを聞いてきたから	
なぜ牛を売った	３人
→パンを買えないほど貧乏だったから	
豆をなぜ投げたのか	２人
→火はないし、粉々にできないから	
なぜ木に登った	２人
→好奇心がわいたから	
なぜ空腹なのになぜ登れた	２人
→好奇心がわいたから	
	その他多数
児童だけの意見（高校生になかったもの）	
なぜすぐに疲れたのか	６人
→怠け者だから	
どうして天まで届いたか	５人
→三つ固まってはじけたから	
おじいさんは何者？	４人
→肉屋	
ご飯を食べさせなかったのは	４人
→泣き疲れて寝てしまったから	
どこに住んでいたか	３人
→イギリス、ロンドン	
ジャックは登ったが心配でなかったのか	２人
→パンを買うのにどうしたらいいのかで頭がいっぱいだったから	
なぜ肉を食べなかったのか	２人
→パンが主食だから	
なぜ雌牛を大切にしていたのか	２人
→畑仕事もできないし、ミルクも飲めなくなるから	
	その他多数

と、以上の通り、疑問を本ｂで解決している。高校生は21の解決を見つけたが児童は28も解決している。また小学生のみの解決も、ジャックの人物像に迫るものもあり、物語をよく読んでいることが伺える。児童の素朴な疑問が解決されたものもあるが、童話に夢中になって主体的に疑問を解決していると言えよう。

6　考　察

6-1　読み比べの肯定的感想と否定的意見

（注：大河原・細川・苅間澤（2012），pp.172-173を一部引用してあります）

児童の肯定的感想には以下のようなものがあった。

ジャックの話を二つ比較するのはいいと思う。物語の差を見ることにより、本をじっくり読むことが身につけられる。詳しく読んでいくと発見があり、疑問が出てくる。それを解消することで、

本をもっと読みたいという気持ちになれる。このことで、本をみんながもっと読むような気持ちになる。

一つ一つみんなで意見を出し合って進めていってとっても納得できたので良かったです。特に簡単なＤＶＤを見て、お話を読むとわからないところもあります。それを少し詳しく書いてある物語を読むと、欠けているところやもっと詳しく知りたいことがよくわかります。同じお話でも言葉を変えるとイメージや感想、納得の仕方がまた違ってくると思いました。

このように同じ書名の本を比べて読むことで疑問が解決し、おもしろいと答えている。また比較読みで奥深さを知り、読みが深まったという児童もいる。

ジャックと豆の木にはこんなにも奥があったなんて知りませんでした。物語によって母親の態度やジャックの性格が怠けものだったり、こんなにも変わってびっくりした。ほとんどの謎が解けなくて残念だったが、これからは私なりの答えを見つけていこうと思った。この話は雲の上の世界の話でとても面白いが、ジャックの言動や母親の言葉にびっくりした。それに「ジャックと豆の木」というんだから木だと思っていたけれど、３つの豆のつただったなんてわからなかった。ジャックと豆の木の作者はどのようなジャックと豆の木を正しいと思っているんだろう。

この児童は多様な『ジャックと豆の木』を知り、物語というものに対して、分析的に見る視点をもって語れるようになっている。

しかし、中には比べ読みに対して批判的な意見もあった。

とても大変でした。物語１（引用者注　物語ａ）で書いてある後半の部分が物語２（引用者注　物語ｂ）では書いていなくて、大半の問題や疑問点が解けませんでした。でも少しでも問題点や疑問点が解けてすっきりしました。なので、今回のやり方をできればまたやってみたいです。

このように物語ｂでも解けないことにストレスを感じた児童もいるようである。しかしそのストレスを読書への意欲につなげる児童もいた。提示した物語の続きを探すために、都立図書館まで行って、本を借りてきた児童も出現するなど、読み比べの方法でも納得できずに、すっきりしないという感想が、さらなる読書への意欲にも繋がった児童もいたようである。

このように比較読みによって児童はおおむね、読書への意欲を高めたということができよう。

6-2　グループでの話し合いについて

話し合いについてはおおむね前向きであったが、次のような意見もあった。

今回のやり方はあまり楽しくありませんでした。なぜなら友達の意見を聞くときに班で出し合ってやるよりも、いっせいに手を挙げる方は個人の意見を聞けるのでおもしろいからです。

確かにグループで話し合いを行うと意見を出しやすい。教師も意見を自由に出させるためにグループ活動を行うことが多い。しかし、その一方で、個人の意見が消されてしまうという短所があることを受けとめなければならない。今回はグループでの密度の濃いコミュニケーションをとることが目標なのでこれでよいが、グループでの話し合いの長所と短所を理解した上で使い分ける必要がある。

6-3　複数の『ジャックと豆の木』を読むとは

比較読みの課題としては次の２つが浮き彫りになってきた。１つは詳しい話と易しい話が同じ話かどうか、ということである。優しい話で書いてなくて、詳しい話に書いてあるということは優しい方が省略しただけなのか、それとも全く違う話

なのか、という議論である。内容が違っている、または詳しい方は付け足しをしていると読むこともできる。両方とも原作とは異なるかも知れない。詳しい方には易しい方の答えがのっているというのは早計かも知れない。詳しい方で簡潔な方の疑問を解決するというのは、訳や内容が異なるので、同じ物語ではないのではないかという問題がつきまとう。今回は興味関心を持たせることが目標であるので、問題はないが、解釈として考えた場合には問題が残るであろう。

もう１点はどうしても読みが分析的になるということである。子どもは『ジャックと豆の木』を味わい、楽しんだのか、というと疑問が残る。実際38人いて、『ジャックと豆の木』の違いにみな注目し、『ジャックと豆の木』の話自体に注目した感想は以下の１つだけであった。

ジャックの苦労がとてもわかってよかったような気がします。私は日ごろよく本を読みます。漫画ではなく物語です。いつも、ものすごく本にひかれていく感覚で、時間も考える感覚も本のせいでまひすることがあります。このジャックと豆の木も同じような感覚がありました。ジャックはとても好奇心のある子だなと思いました。しかしあまりにも怠け者すぎるのは困ります。でも好奇心をもつということは悪いことではないと思います。

高校生が分析的に文学を読む際には分析的な読みが必要であるが、小学生にもそのような読みをさせる必要があるのかどうかは議論の余地があるだろう。しかし、文部科学省の学習指導要領解説で、高学年の「読むこと」の指導事項には以下の通り挙げられている。

【カ】目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

とあり、また【カ】の解説に以下の通り書かれている。

高学年になると，児童の興味・関心が多様になる。一冊の本や一編の文章では，課題を解決しにくいこともある。そこで，「目的に応じて，複数の本や文章などを選んで」読むことが必要となる。「複数の本や文章」とは，同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章，同じ書き手の本や文章などのことである。（中略）また，複数の本や文章などを「比べて読むこと」は，様々な違いを発見する喜びを知り，知識や情報を豊かにしたり，読書の範囲を広げたりすることにつながり，多くの本や文章などを読むことの意義や楽しさを実感させることになる。それは，読書を日常的に行う読書生活の構築にも役立つ。

下線部でも分かる通り、同じ課題の複数の本を読み比べることは、読書の範囲を広げ、意義や楽しさを実感させることにつながる。学習指導要領にもある通り、これから小学生の読書の方法として、今回の読み比べはとても価値のある方法であるといえるだろう。

おことわり

本研究の一部（表２並びに考察の一部）は、日本教材学会誌『教材学研究第23巻』に投稿したしたものを使用しました。日本教材学会に御礼を申し上げます。

参考文献

ダックスインターナショナル 1977
　ジャックと豆の木　童音社
三宅忠明　1978　ジャックと豆の木ほか
　家の光協会 50-71
大宮杉　1977 ジャックとまめの木　日本書房
大河原清・苅間澤勇人　2011　読書に興味を持たせるための同じ書名の本の読み比べ法　岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，10，95-137
大河原清・細川太輔・苅間澤勇人　2012　童話の分析的読み方と読書への興味～童話『ジャックと豆の木』の冒頭部分の読みを通して～　教材

学研究 , 23, 171-178
文部科学省　2008 学習指導要領解説国語編　東洋館
DVD『よいこのアニメ DVD　ジャックとまめの木・ふしぎの国のアリス』大創産業